



Vol.21

ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

ホロケウ(オオカミ)



しばらく前、横綱白鵬関とご一緒
したんだけど、お着物に描かれてい
たのは満月に吼える凛々しいオオカミ。横綱
の故郷モンゴルは、古来、オオカミを神とし
て崇拜してきたお国柄なので、しばらくオオ
カミ談義に花が咲きました。

アイヌ民族も、ホロケウ(オオカミ)を位の
高い神として崇めてきたよね。どうしてなの
かしら。たとえば、狩猟を生業としていたア
イヌの人びとにとって、海の凄腕ハンター・レ
プンカムイ(沖の神IIシャチ)が尊敬すべきか
つこい神なのと同じように、集団で見事な
狩りをするオオカミも尊敬されたのかもし
れないよね。

でも、それとはまた別に、アイヌ文化にお

けるオオカミ神ってなんとなく特別な存在
のような気がする…。たとえば、森で一番位
の高いクマ神でも、人間の娘に恋をして結婚
しようと企んだら、こっぴどく罰せられる物
語が多いのに、人間の男に恋をしたオオカミ
の娘はなぜかワイイ人間の娘になって結ば
れちゃう。それどころか、ユカラ(英雄叙事
詩)に登場する主人公ポイヤウンペの恋人や
母親は、オオカミ神の妹って設定が圧倒的に
多いんだから不思議。しかも、獣なのに、オオ
カミ神の国は天上界にあるって考えられて
るみたい。

美幸さん、オオカミってミスティアスだと
思わない？



北海道ではオオ
カミが絶滅して久
しいし、その生態がわから
ないこともどこか謎めいて
いてミスティアスに感じる
のかもしれないね。

物語に登場するオオカ
ミ神は、その姿が犬として
語られることがあるよね。
「山奥からクマの荒々しい声が
聞こえると、決まって家のどこ
からか犬が飛び出して行ってク
マに嘯みつき追い払ってくれる。



水汲みをしようとして
川に落ちてしまう犬。
ところが…

不思議に思っているとある夜、クマと犬が争っている
時、懐に下げていた木彫りのオオカミが無いのに気が付
いた。木彫りのオオカミは嫁入りの際に兄が「肌身
離さずさげておけよ」といつて渡してくれたもの…」
クマと戦っていた犬は木彫りのオオカミで、女
の守り神のオオカミ神であったという話や、
「人間の男に飼われていた白い犬が、ある日、男の
役に立とうと柄杓をくわえて川で水汲みをしよ
うとして、うっかり川に落ちて流されてしまった。や
つとの思いで陸に上がったが、白い犬は疲れて眠って
しまった。目が覚めるとそばには犬の毛皮が置いて
あり、白い犬は美しい人間の娘の姿になっていた。
白い犬はオオカミ神の娘で、今はもう死んでしまっ
た男の両親がいつもオオカミ神を大切に祈っていた
ので、ひとりぼっちになってしまった男のためにオオ

カミ神の娘を遣わした：」

人と神、互いの心遣いが伝わる
話ですが、ここでもオオカミ神は
犬の姿で登場します。他にも、
文化神が国造神から預かった犬
がオオカミになったという話な
ど、オオカミと犬は非常に近い
存在だといえるよね。

食物連鎖の頂点にあったエゾ
オオカミが絶滅して一世紀以上
たった今、獣害駆除のための復
活論も出ているけど、生態系を
取り戻すのって難しいよね。●

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。